

## 曾我 英子 (Soga Eiko)

2021~2023 年度奨学生

オックスフォード大学 ラスキン・スクール・オブ・アート 博士課程

2022 年後半は、論文を書き上げる作業を行っています。博士課程での研究を始める前から行ってきたアイヌの人々との活動の大きなまとめの一つとなります。ですので、思うことや書きたいことが多く、現在まで研究として一つの形にまとめることを悩ましく感じてきました。

例えば、ON2022 での会でもテーマとなったジェンダーギャップに関する事です。私と一緒に活動してきた、アイヌのおばあさん達は、女性であることに加え、アイヌ、地方出身、お年寄り、と言うことで社会から疎外された立場にありました。自然から得た知恵や、ご先祖様達から受け継いできた知恵を、おばあさん達は豊富にお持ちになっています。しかし、表舞台に立つ事は多くなく、彼女達の知恵は博物館やアイヌ研究者の情報と変換されてきました。また、資本主義社会や国家社会に加え、グローバル社会と呼ばれる現代の社会の仕組みでは、口承文化が養ってきた精神性などは、受け継がれるのが大変な事を深く理解しました。そして、目に見えない情報などは、特に女性であるおばあさん方が大切にされてきたにもかかわらず、男性社会の中で女性達は、男性を怒らせない・尊重することに忙しくされていました。そのような状況のため、貴重な記憶が可視化される前に、無かったものになっていく様を目の当たりにしました。

アーティストとしての活動だけでなく、私も研究者と言う立場でアイヌ文化に関わってき

ましたので、どのように熊谷カネさんから受け継いだ知恵や情報を形にするのか、悩むところでした。しかし、アイヌのおばあさん達から学んだことは、どの様な状況でも「笑顔でいること・皆が楽しい気持ちになる事」を思い出し、その様な態度を研究のまとめの作業に反映することにしました。私は、まだまだアイヌのおばあさん達の様に可愛らしく、また強くいることはできません。しかし、論文をまとめる作業を通して、彼女達から学んだ世界観が少しでも身につけて行くといいと願うばかりです。

夏以降は、展覧会やトークなどを通して、研究の発表を国内外で行って来ました。

バーミンガムの IKON GALLERY にて、研究内容の発表を行いました。ウェブサイト内にトークの録音がアップされました。

TALK: TOWARDS A LIVEABLE WORLD - LEARNING FROM AINU CULTURE

<https://www.ikongallery.org/exhibition/mayunkiki>

また、オックスフォード大学・ビジュアルアンソロポロジー学科やノルウェーの大学の授業の一環として、私の映像作品「秋鮭」が上映されました。次世代の研究者達の役に立つことができている。



引き続き研究に集中し、少しでも多くの人々と発見や考えをシェアしていきたいと思っています。

いつも、サポートをいただき、ありがとうございます。大変感謝しております。

引き続き、どうぞ宜しくお願いします。

以上